



カメラマン：山田新治郎（表紙、並びに当ページ）



構造煉瓦の表面に貼られた創建時の化粧煉瓦は当時の焼成技術、原料の違い等によりその赤色が微妙にバラついている。あえてその色差を再現するために着工前から7年間にわたって試行錯誤を続け、大量生産を想定したテストも実施した。化粧煉瓦の試作見本は15,000枚を超えたという。

の焼きムラを表現して見せた。全体的な違和感は払拭されたが、目を凝らすと境界は分かる。およそ百年の時を超えて新旧の煉瓦が整然と並ぶ。時の流れとともに、その境目も判然としなくなるに違いない。古くて新しい東京のシンボルが未来への歴史を綴り始めている。

外壁復原では、一、二階部に残存する化粧煉瓦と、三階部に新調する約四〇万枚の化粧煉瓦との風合いをいかに調和させるかが課題となった。焼成条件や原材料を変えながら試作を繰り返し、最終的には三つの条件で焼成した化粧煉瓦を混ぜ合わせることで、大正時代の煉瓦タイル調高い美しさを取り戻した。

その時から半世紀余り、東京駅丸の内駅舎の再生・復原計画が起案される。国の重要文化財にも指定されたこの駅舎の復原工事は二〇〇七年五月に着工、免震化も施され、二〇一二年に創建当時の格調高い美しさを取り戻した。

東京駅丸の内駅舎

東京都千代田区丸の内